

「多文化共生研究所」活動実績報告書（R5～6）

本研究所は

- ① 人文社会科学を専門領域とする各班員がフィールドワークを軸とした研究手法を用いて学術的に分析し、静岡市の多文化共生をめぐるデータとしてアーカイブ化する。
- ② 得られた知見をもとに問題解決に向けて本学の留学生や行政、NPO との連携や現在、行政と現場の間で生じているミスマッチの解消を可能にし、関連アクターと共同して解決のための提言を行うハブ的機能を本学が果たせるような制度を設計する。

という2本柱を軸に活動を展開するものである。令和5～6年度にかけて、本研究所は引き続き①に焦点を当て、人文社会科学部学部長裁量経費を用いて静岡市内の調査等に従事してきた。特に、静岡市内の三菱電機静岡営業所に焦点を当て、当該企業で就業する外国人労働者と現場の監督者が形成する関係や現場での配慮等についての聞き取りを行なった。ここで得られたデータ等を今後はアーカイブ化する作業に従事する予定である。

また、本研究所のプロジェクトを進展させていくための作業として、上記三菱での調査を経て、三菱での企業研修にて講演する方向で調整を進めている。また、地域へのアウトリーチ活動として、令和6年度に静岡大学キャンパスフェスタにおいてイベント「留学生と遊ぼう！」を開催し、本学に所属する9名の留学生と地域の人々との交流の機会を設けた。本イベントには23家族（のべ80人）が参加し、好評をいただいている。今後も同イベントを継続開催していく所存である。

・外部資金獲得について

今後のプロジェクトの展開において外部資金の獲得が急務なため、トヨタ財団等に申請予定である。